第3回
JLAジュニアライフセービング
クラブハウス実施報告書

公益財団法人　日本ライフセービング協会
ライフセービング教育本部　地域教育推進委員会
主担当：木島　悠太朗（地域教育推進委員長）　副担当：高橋　悠（地域教育推進委員）

JLA Jr LIFESAVING CLUBHOUSE

実施概要

【事業実施体制の強化】
主担当に加え副担当を配置。2名体制とし、事業実施を安定化。

第３回 JLA ジュニアライフセービングクラブハウス事業

■　概要

本事業は、コミュニケーションの機会が少なくなりがちなジュニア指導者に対して、交流の機会や、研修機会を提供することを目的として実施する。

「指導者―指導者」…指導者コミュニティを強化し、ノウハウや課題を共有。
「指導者―JLA」…実践知の還元、JLA 動向の共有。
「指導者―society」…学校教育機関、自然体験・社会教育・地域教育に関する企業、任意団体

キーワード：リレーションシップの強化。顔が見える関係。困ったときにはお互いにフォローしあえる。

春季：セミナー形式、先行事例の共有、ロールモデルの共有、シーズン前の新しい試み
秋季：交流会、意見交換会、シーズンの経験を温かいうちにブレインストーミング、シーズン後の振り返り

- 休日の夜の時間か？昼の時間か？時間を固定することで、クラブハウスといえばこの時間という定番にするのもいいかもしれない。相談出にくくなる人もいるかもしれないが
- 第１回は日曜日18:00~19:30、第２回は平日の18:30~20:30
- 休日、平日交互開催
- 女性参加者の検討

■　実施日時

1 月 15 日　日曜日　19:00~20:30

■　事業目標

- 全国の小中学生に対し、ライフセービングを学ぶ機会の創出をめざします(目標:全児童生徒数の 60%)。(JLA グランドデザイン 2031 より)
- JLA ジュニアライフセービングクラブハウス年間目標参加者数 50 名。(2022 年度)
  ※第１回申込者 30 名
- ジュニアライフセービングの指導プラットフォーム整備の一環として、指導者間コミュニティを活性化し、リレーションシップの強化を図る。
- 「指導者同士お互いの顔がわかり、近くのクラブがどんな活動をしているのか知っている。」⇨このことから、クラブ間の合同イベントや、器材、指導員の共有、講習会の共同開催など活発な交流を引き出していく。
- 「遠く離れた環境や、タイプの違う活動から学ぶ。」⇨画一的な活動に偏ることなく、広く豊かな手法に目を向け、海を楽しみ、海から学ぶ、子どもたちを中心とした豊富な指導実績を共有の財産とする。

■　事業内容

オンラインによる意見交換会、顔合わせ会、及び研修などを実施する。

■　事業役割分担

＜事業主担当＞
木島　悠太朗
＜事業副担当＞
高橋　悠
＜グループワークファシリテーター＞
教育本部委員

■　主な SDGs の関連項目：（ターゲット 4.7）（ターゲット 14.1、14.2）

■　タイムテーブル

1 時間 30 分
19:00～19:10　開会式　委員紹介、クラブハウス事業概要説明（10 分）
19:10～19:30　グループワーク①地域別意見交換会（20 分）
19:30～20:20　グループワーク②テーマ別意見交換会（50 分）
20:20～20:30　閉会式+終わりのことば（10 分）

■　事業準備

告知依頼：12 月 15 日木曜日（事務局へ）
募集期間：2022 年 12 月 16 日金曜日～2023 年 1 月 10 日火曜日 24 時
実施日：12 月 15 日日曜日 19:00～20:30

■　準備物

要綱、案内（フライヤー）、ワークシート、申し込みフォーム、アンケートフォーム、LINE オープンチャット（１週間限定）

■　申し込み

google フォームによるエントリー
https://forms.gle/ZPTyzyqF4S3f8kKK6

- クラブネーム（なんて呼んでもらいたいか　&　zoom チャットで指名出来るように）
- 主な活動地域、所属クラブ（グールプワーク①のグループ分けに使用）
- 話し合いたいテーマ（グループワーク②のグループ分けに使用）

実施概要

- 写真等を報告書に使うことの同意書
- オープンチャット設定に関する同意書→事後アンケート回答者に通知するため事前では不要
- どのようにクラブハウスについての情報を得ましたか？※広報に関して集計
- ジュニア活動の指導経験※どういった指導者が参加しているか
- 取得資格
- e-Lifesaving、カルタ、バッジテストの認知度
- スタートアップか中堅か
- 運営か指導に関することか

締切 2023 年 1 月 10 日火曜日 24 時

■ 事後アンケート内容

- 参加回数（リピーターの人が何を求めているかなどのクロス集計）
- 現在の指導歴（スタートアップの課題、中堅の課題などのクロス集計）
- 運営側か、指導側か（運営者、指導者のそれぞれの課題やリスクマネジメントについて何か読み取れないか？）
- 運営に関するアンケート（開催時期、開催時間、開催方法、当日の内容）
- 参加しての感想（全体、グループワーク１、グループワーク２）
- クラブハウスに期待すること
- 現在抱えている課題（個人）
- 現在抱えている課題（クラブ）

■ 方法

当日：Zoom を用いてオンラインで実施

開催後 1 週間：LINE オープンチャット（各グループの話し合いの内容を PDF にて共有、申し込みメールにも送る）

■ グループワーク

- ➢ グループワーク①地域別意見交換会：各地域での交流を深め、お互いに顔が見える関係を作る。同じ地域だからこその共通の課題や、解決法もあるのかもしれない。近すぎて意外と隣が何をやっているか、何に困っているかを知らないこともあるかもしれない。そこで手を伸ばせるか～が鍵ではないか。申し込みフォームでは近隣地域を選ぶか、遠方地域を選ぶかを選択式とする。
- ➢ グループワーク②目的別意見交換会：それぞれ話したいテーマごとに意見交換する。ファシリテーターはできるだけテーマ別に強みが活かせるグループに配置。課題についての解答、解答についての補足などを整理して資料化し、オープンチャットで共有。あくまで参加者のお土産なので一般公開はしない。参加者であれば別グループのものは見られるようにして構わない。

グループテーマ例：資金調達／参加者獲得・継続／運営事務・保険／学校・地域連携

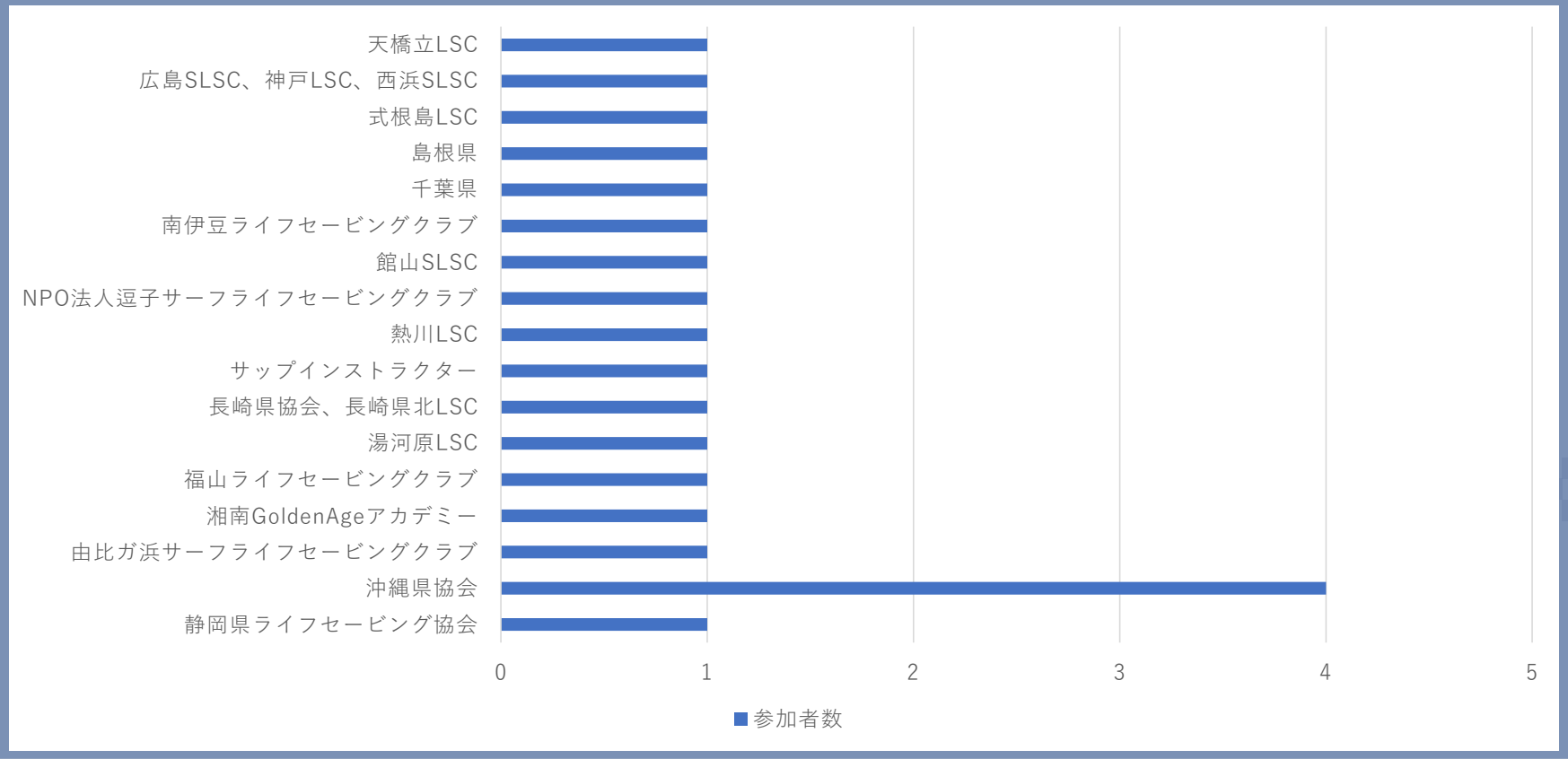
■ クラブハウスレター（仮）：参加者同士にメッセージを送る。メッセージのテンプレートを用意。内容：あなたのここが参考になった、ここについて私はこんな成功体験をしている、こんなところに感動した、あなたにこんなことができます、こんなところがよかった。LINE オープンチャット投稿の先頭にピン留め、クラブハウスレターを他の参加者に最低でも 1 人にプレゼントするよう参加者に依頼する。

■ メモ　1、zoom ミーティング ID を後日送る必要があるので、必ず回答がメールに送られてきたか確認するよう一言入れる。そして ID がメールで送られてくることも案内に入れる。2、zoom 設定は本会開始 30 分前から直前会議とし、その更に 30 分前に開始設定する。終了時刻も事後ミーティング実施もあるので 1 時間は確保する。

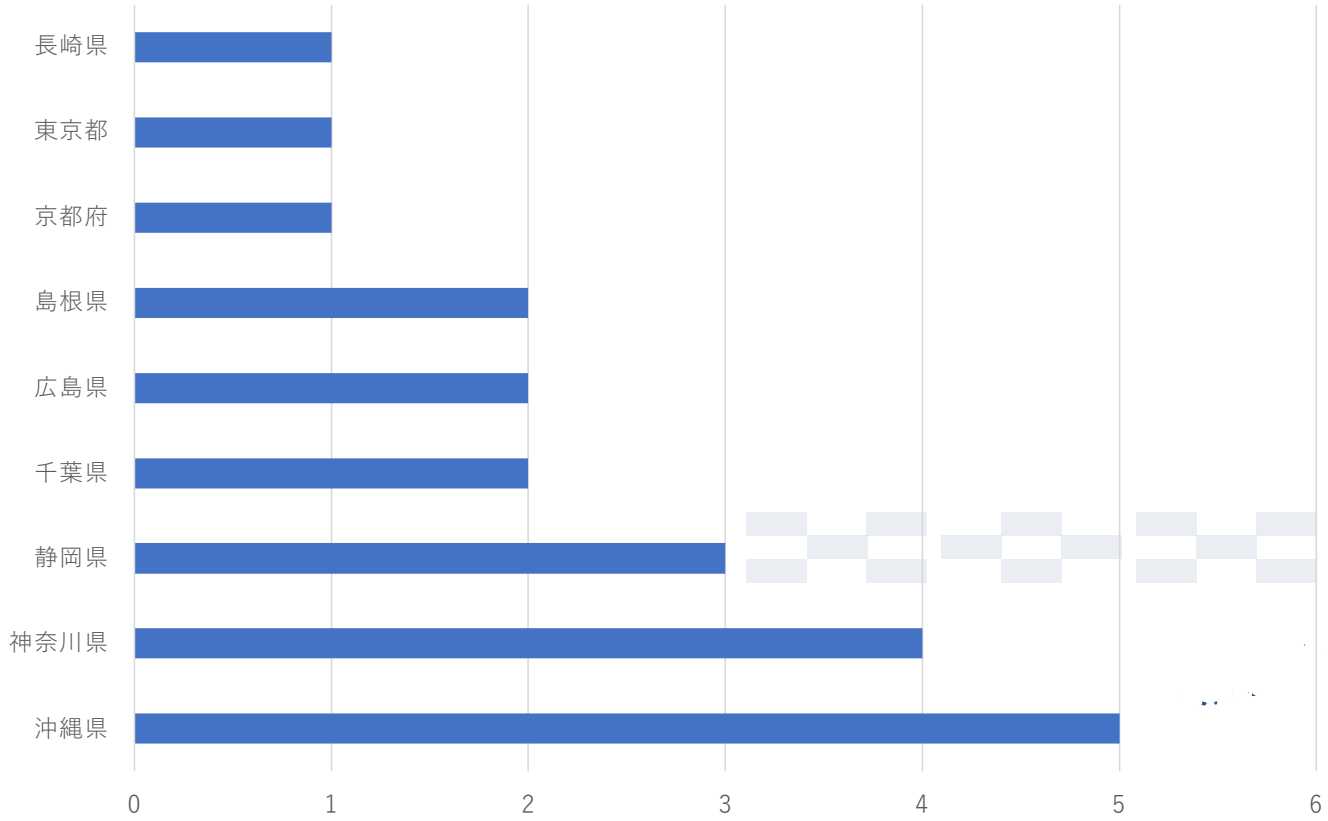
【グループワークテーマ】
参加者それぞれのニーズに注目し
「テーマ別」「地域別」の２回実施。
それぞれに複数の選択肢を設けた。

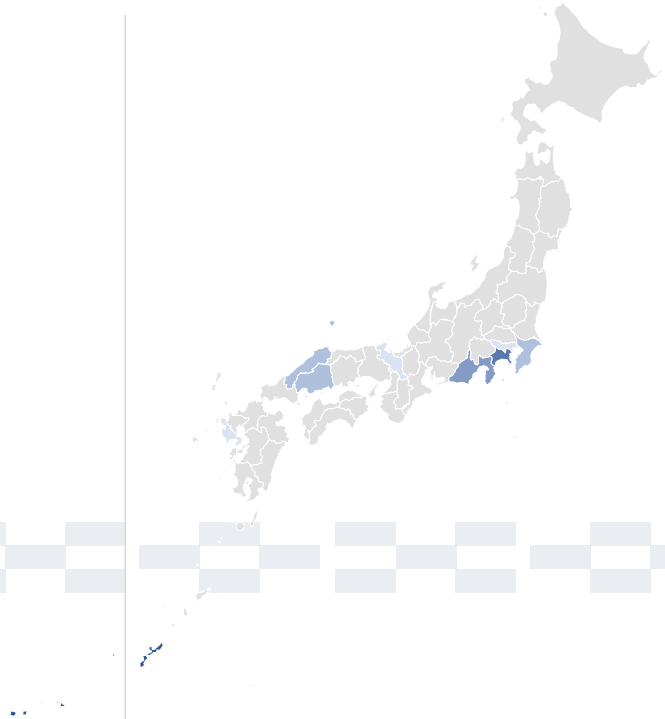
【オープンチャット】
コミュニケーション促進を目的に、
参加者限定のLINEオープンチャッ
トを開設した。

参加者傾向【所属クラブ（所属がない場合は県協会名or職業）】

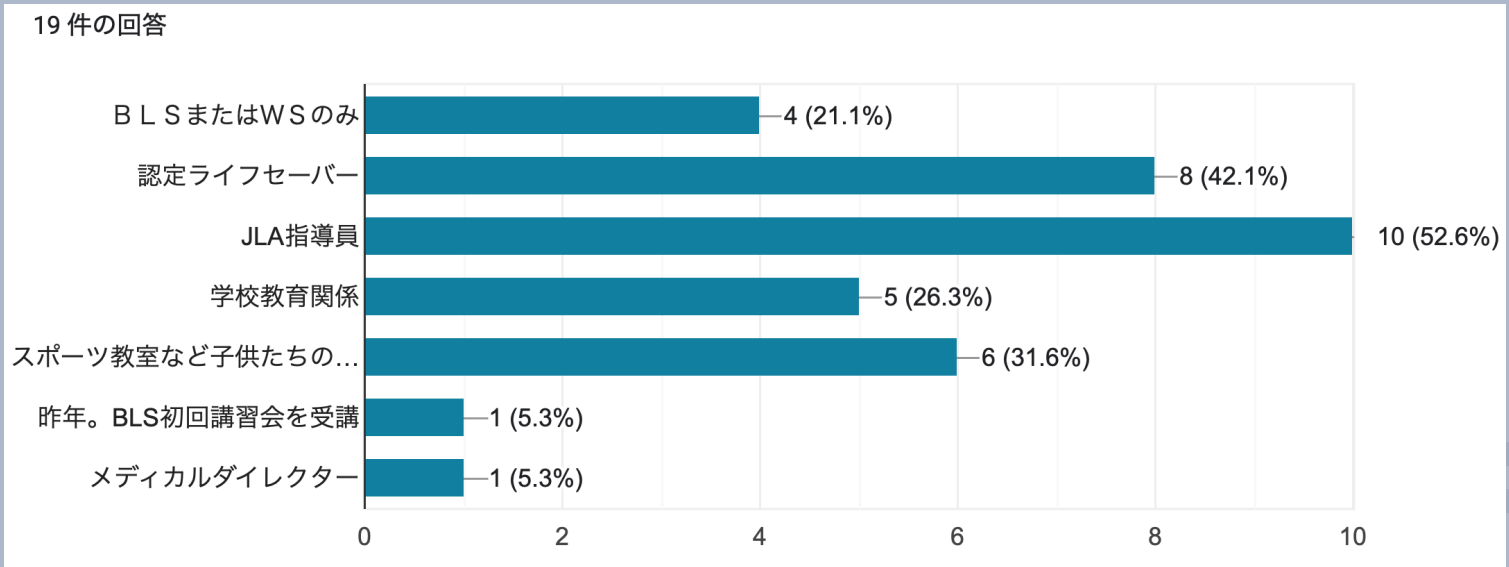


参加者傾向【主な活動地域（都道府県名）】





参加者傾向【JLA所有資格など】



指導員の参加が最多。
学校教育関係者にも複数名
応募いただいた。
※重複回答あり

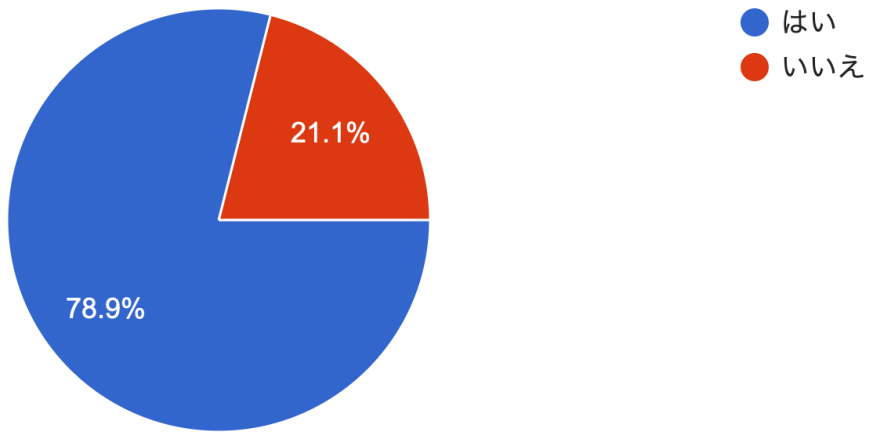
ジュニア活動について

19 件の回答

現役指導者が大半。意欲的な新規指導者は
1/5程度おり、グループワークとして独立さ
せてもいい人数比。
→話し合いの内容を考えても新規指導者と
既存指導者を分けるのがベスト。

e-Lifesavingを知っていますか

19 件の回答

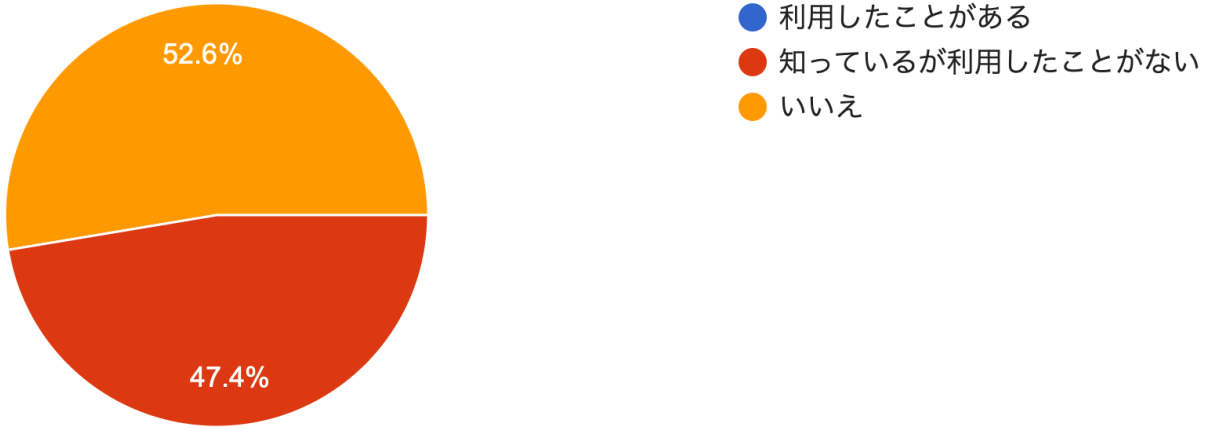


第1回クラブハウスの同様の質問では、はいが63%であった。
知っている方が増えている結果となった。
※参加者傾向の違いや、参加者の少なさを考えると単純比較はできないが、
長期で記録することで、浸透してきている様子は窺えるかもしれない。

参加者情報とのクロス集計で、どの層へのアプローチが少ないのか分析するのが、今後の広報の助けになるかもしれない。

ジュニアライフセービングバッジテストを知っていますか

19 件の回答

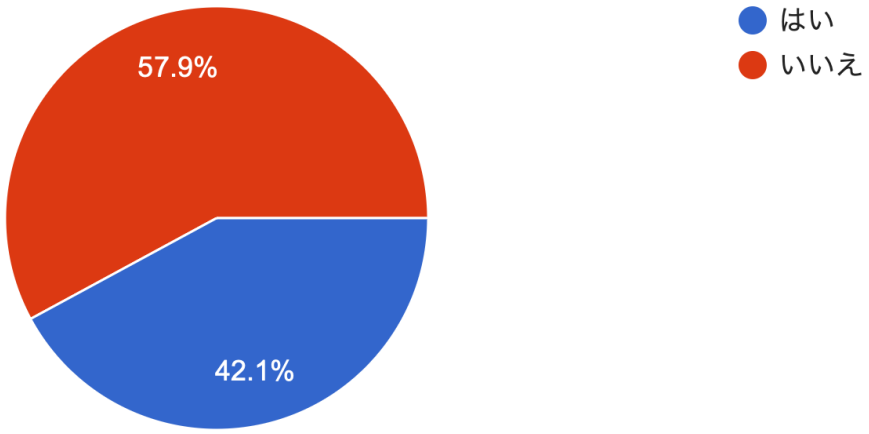


第1回クラブハウスでは、同様の質問における、利用したことがあるの回答は33.3%であった。

e-Lifesavingアンケート同様クロス集計を活用し、普及率や広報などに言及していきたい。

過去に当ジュニアクラブハウスに参加したことがありますか

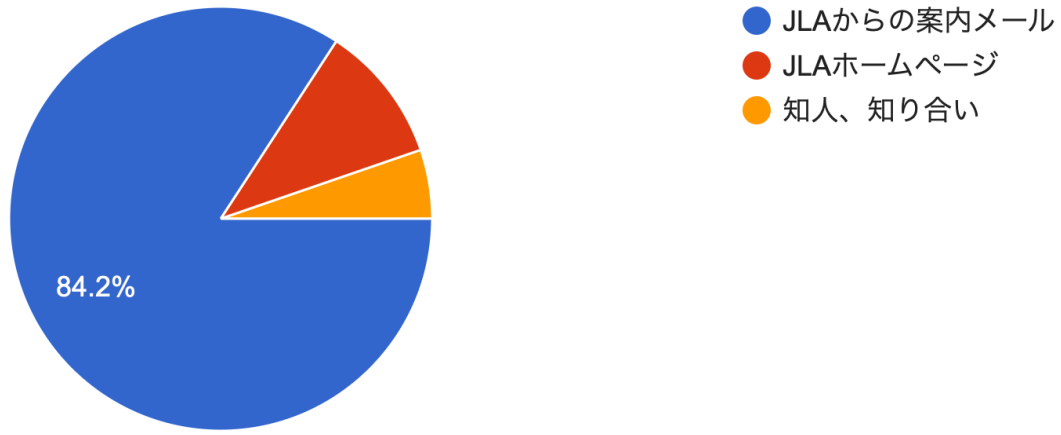
19 件の回答



参加者情報として取得。継続して
参加する方が増えるのが望ましい。
クロス集計に活用する。

クラブハウスの開催についてどのように情報を得たか

19 件の回答



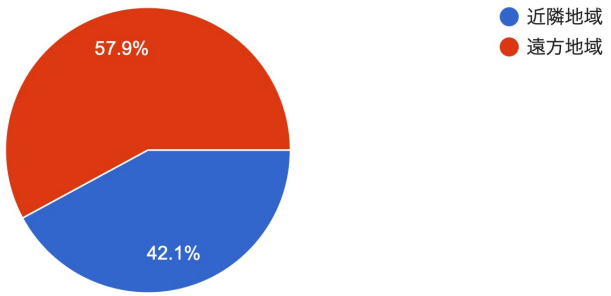
広報の手法に関する振り返り。
参加者の多くは、ライフセーバーズにより情報をキャッチしている。
→ライフセーバーズを出すタイミングを効果的に。複数回出す。アクセスしやすい告知方法に配慮すること。

※ホームページを用いた広報として、年間スケジュールが出せるなら、クラブハウスページにて、申込フォームを常設する。

グループワークの希望グループアンケート

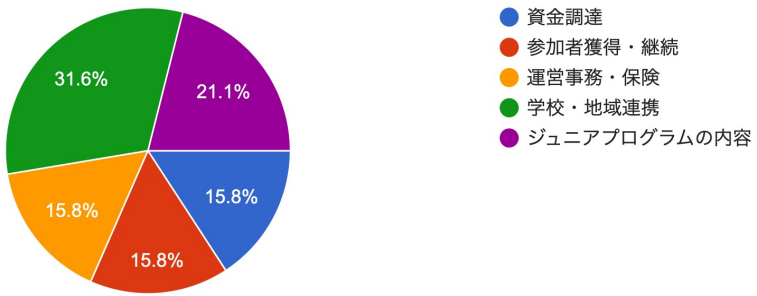
地域別の意見交換会のご希望をお聞かせください

19 件の回答



テーマ別の意見交換会のご希望をお聞かせください...ない可能性もあります。予めご了承ください。

19 件の回答



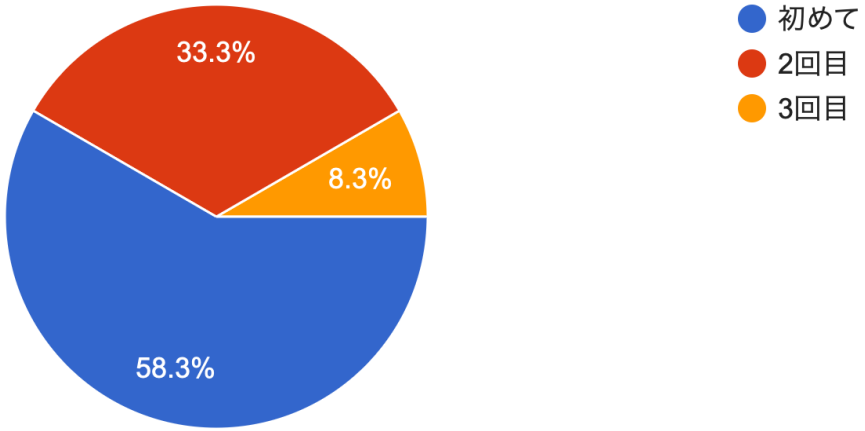
【参加者傾向】

・リピーター（指導経験者多数）
【 近隣地域 < ★遠方地域 】
★交流会を希望

・初回参加者（未経験者多数）
【 ★近隣地域 > 遠方地域 】
★課題解決を希望。気になることが明確

JLAジュニアライフセービングクラブハウスへの参加回数

12 件の回答



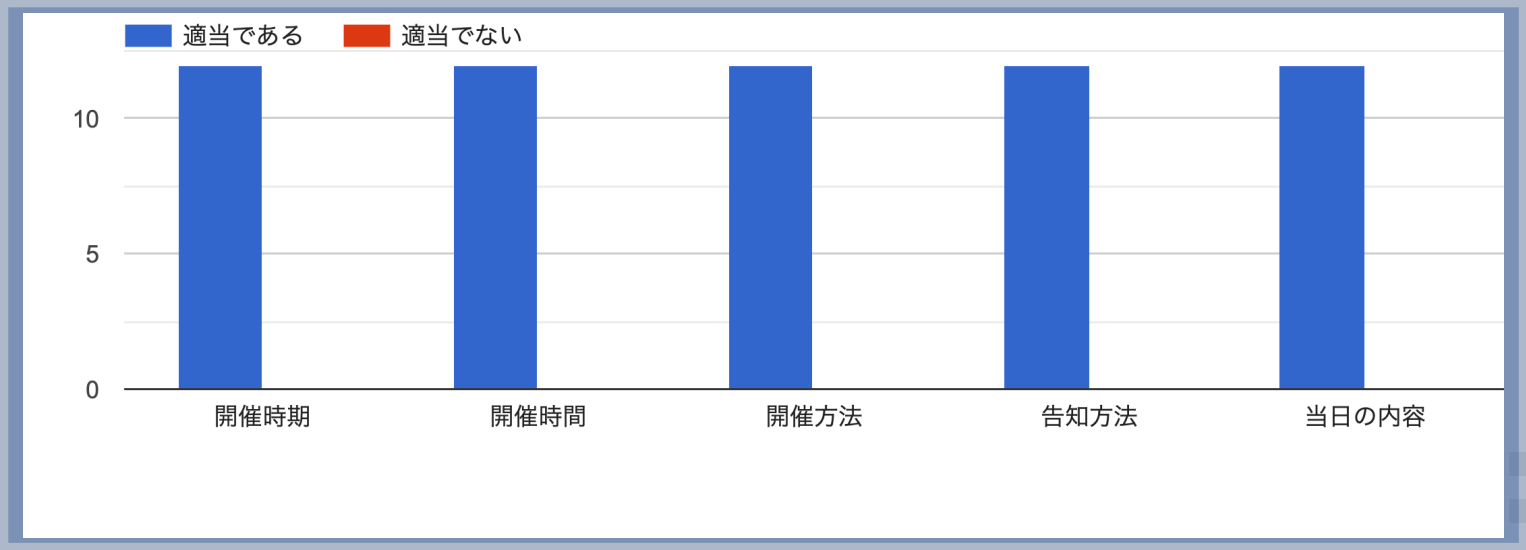
リピーターは指導経験者が多数。未経験者は初めて参加のみであった。2回目参加までに全ての人が指導経験を得られたとは考えにくいので、指導未経験者が複数回参加しやすい運営のためにはどうすべきかも課題。
指導経験者が何度も参加しているのは良い傾向である。

参加動機

12 件の回答

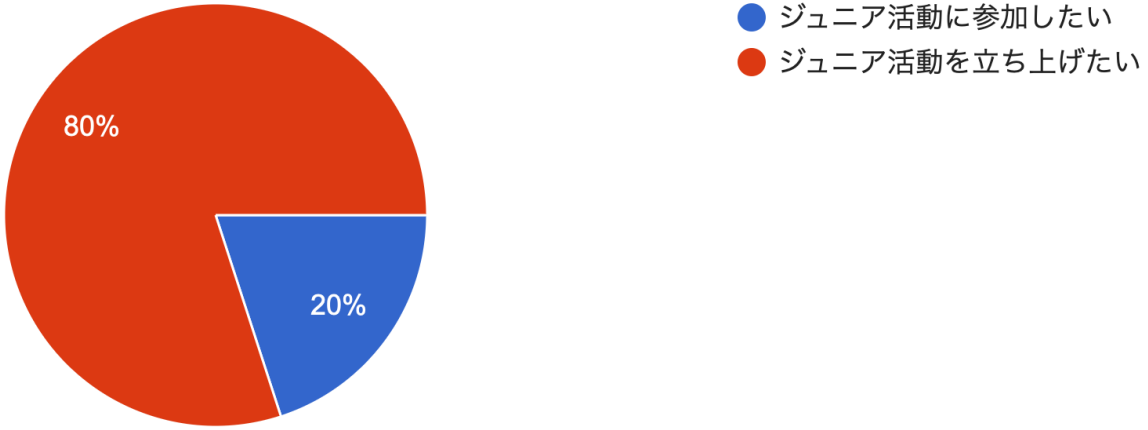
他のジュニアライフセービング指導者との交流	4
所属団体、自身の指導、環境などについて相談したいことがある	3
ジュニアライフセービング関連の集まりに参加したい	2
自己研鑽のため	2
野外教育やマリンスポーツなど各種プログラム指導者との交流	1

運営



ジュニア活動に参加していない人たちのニーズ

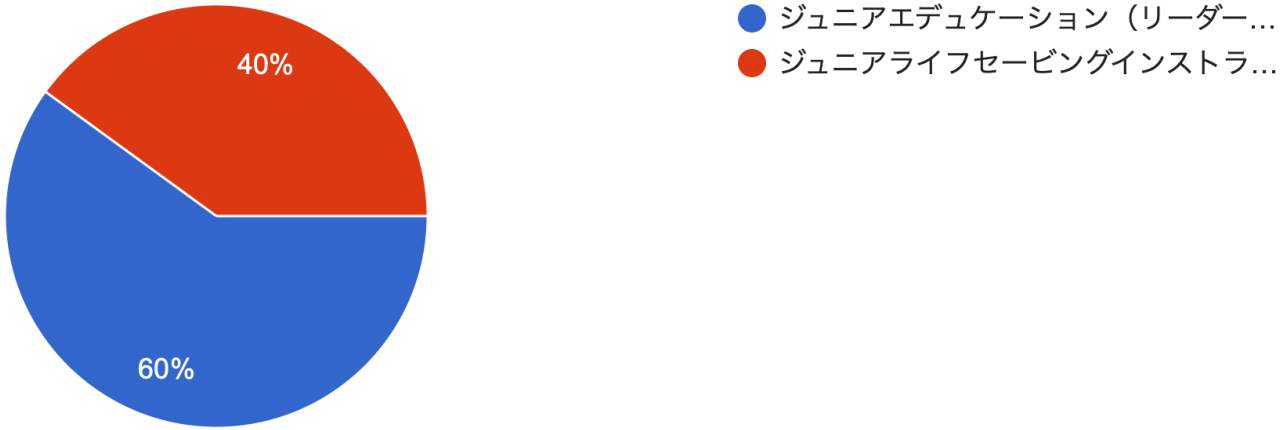
5 件の回答

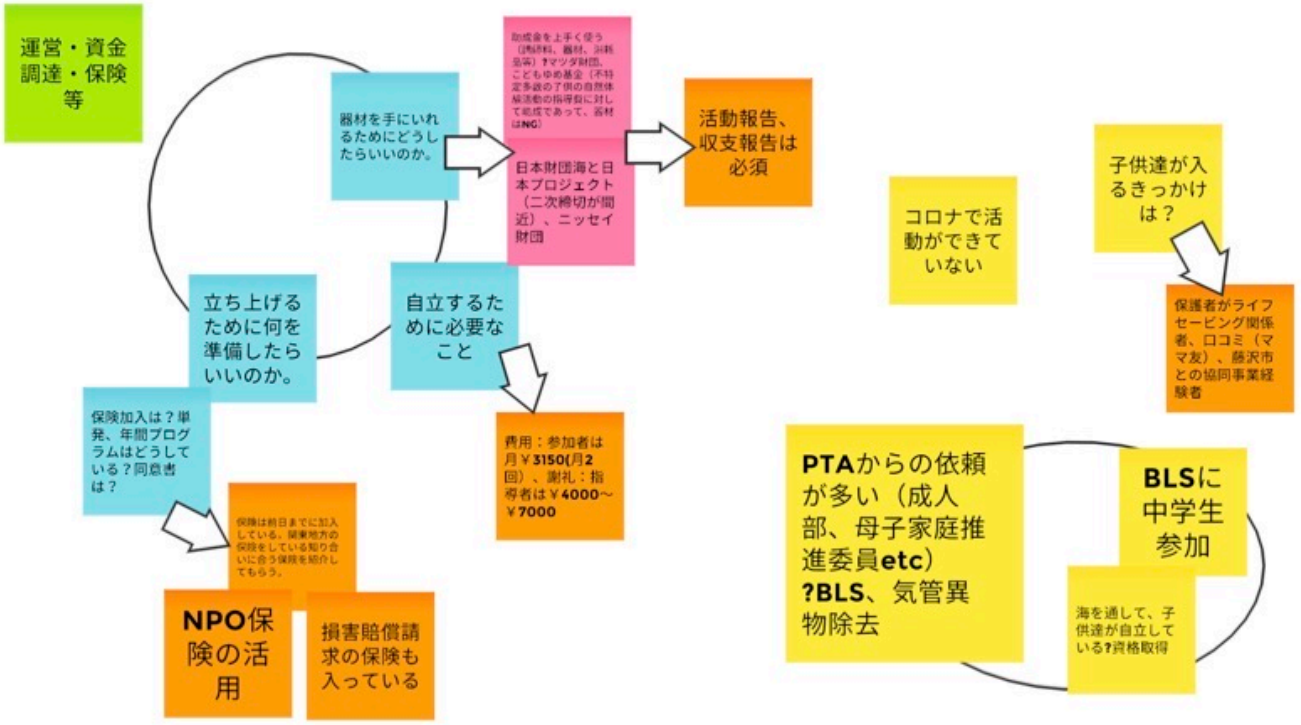


0から立ち上げるのはハードルが高いと考えられるが
今回のアンケートではニーズが高い結果となった。以下参加者情報からの推察
・地方のため周囲に参加できるプログラムがない指導者
・自然体験、マリンスポーツなど他の活動に従事する指導者
・パトロール業務が軌道に乗っているためジュニア活動に興味がでた団体の参加者

ジュニア関連資格を持っていない認定ライフセーバーの

5 件の回答




運営・資金調達・保険等
器材を手にいれるためにどうしたらいいのか。
助成金を上手く使う（講師料、器材、消耗品等）？マツダ財団、こどもゆめ基金（不特定多数の子供の自然体験活動の指導役に対して助成であって、器材はNG）
日本財団海と日本プロジェクト（二次締切が間近）、ニッセイ財団
活動報告、収支報告は必須
立ち上げるために何を準備したらいいのか。
自立するために必要なこと
費用：参加者は月￥3150(月2回）、謝礼：指導者は￥4000～￥7000
保険加入は？単発、年間プログラムはどうしている？同意書は？
保険は前日までに加入している。関東地方の保険をしている知り合いに合う保険を紹介してもらう。
NPO保険の活用
損害賠償請求の保険も入っている
コロナで活動ができていない
子供達が入るきっかけは？
保護者がライフセービング関係者、口コミ（ママ友）、藤沢市との協同事業経験者
PTAからの依頼が多い（成人部、母子家庭推進委員etc）
?BLS、気管異物除去
BLSに中学生参加
海を通して、子供達が自立している?資格取得

プログラムの内容・参加者獲得・継続

- 強化方法、中学生、高校生の続け方
  - 他の習い事のような仕組み作りが必要
  - 部活に入ると続けるのは難しいが、部活入らない子の受け皿を作る
  - 海遊びができる大人がいること。高校生の相手ができる大人がいること
- 運営にかかる費用や機材、保管場所、年代、レベル別（1年目、数年の経験者）
  - 毎月第2土曜にやっているが指導者はおらず、ジュニアに参加している保護者が海練と称して行っている現状。
  - 自治体、県予算を狙うと良い。機材関係は支援してくれた経験がある。コンテナを建ててくれた。
  - ニッパーは日本財団の支援で頂いたものがある。。
  - 機材は会社の倉庫に置かしてもらっている。
  - 参加費は無料が多い。また自治体の補助金をもらっている
  - クラブで新しい機材を購入したら、それをジュニア用にしている
- どのようにメンバーを集めるか？
  - 年に2回ビーチフラッグ大会を開催
    - 工夫①２・３回走れるようにする
    - 工夫②拘束時間を長くしない
  - 25m・50m短距離走をして順位をつけて景品
  - 広報はSNS
  - オーシャンフェスを開催。広報はSNS、知り合い伝。参加者はほぼライフセーバー。
  - 市役所から広報誌に載せてもらう
  - 当日に海で呼びかけ、放送。
  - 色んなところに広報の張り紙。
- ジュニアの育った子どもたちが大学生で他の浜に行ってしまう
  - 監視活動に興味を持てば、日本どこでもどこでも行けるコネクションを作っておく
  - 魅力のあるクラブにすれば戻ってきてくれる
  - ライフセーバーの母数を増やしているので良いのでは？クラブによってニーズの差はある。

第1回からの改善状況

8、次年度事業案

「地域クラブ全てにおいてジュニアライフセービング活動を」力強く後押しします！！

定期開催事業化（2022年度は春、秋に開催予定です）

・ジュニア教育指導者プラットフォームを形作るための、基礎的な情報交換空間の構築を目指します。各JLA委員会と連携することで、学生など幅広い参加を促し、ここで得られた様々な実践知をJLA資格に還元します。

スタートアップ支援

・ライフセービング教育の実態調査報告書により、関心度が高かったクラブや、現在未実施のクラブへの積極的な広報を行い、クラブハウスへの参加を促します。事業立ち上げ時の問題を解決できる、グループテーマを設定します。

ジュニア指導者コミュニティの活性化

・実際にジュニアプログラムを運営する中で関心の高いテーマについて、テーマを絞った意見交換や、先行事例の紹介などを実施します。

JLA Jr LIFESAVING CLUBHOUSE

【振り返り】

・定期事業化→◎（実施）

・スタート支援→○（財団助成クラブへの狙い撃ち広報）

・コミュニティの活性化→○（テーマ別グループワーク）

【次年度改善案】

・定期開催事業化（実施回数増）

ねらい「仲間を意識できる企画づくり。」

・スタートアップ支援

訴求点／近隣地域との交流、具体的な課題解決→地域別クラブハウス、詳細な課題別グループワークなど）

・活性化

年間を通した交流ツール=オープンチャット年間運営